

NCU

Information web magazine

Contents

- Nepal JICA Study Tour 2023
- 海外での研究活動
- Campus Life Q&A
- Introduction サークル活動

Nepal JICA Study Tour 2023



名寄市立大学は「地域社会はもとより、人類が抱える諸問題と異文化にも関心を持ち、広く世界の中で自己の存在を位置づけ行動する意欲を育む。」ことを教育目標の一つとしています。

2023年3月、本学国際交流センター主催によるJICAスタディツアーに学生5名が参加し約2週間の日程でネパールを訪れました。今回ツアーに参加した感想やネパールの社会福祉、文化の違い等についてお話を伺いました。

第1部 ネパールの福祉施設・医療機関

第2部 ネパールの環境・教育



本学参加メンバー

- | | | |
|---|---|---|
| <p>栄養学科 4年
 榮田 春香さん
 北海道倶知安高等学校出身
 (右から3番目)</p> | <p>栄養学科 4年
 南雲 美桜さん
 栃木県立真岡女子高等学校出身
 (右から2番目)</p> | <p>栄養学科 3年
 橘山 はるかさん
 岩手県立金ケ崎高等学校出身
 (左から3番目)</p> |
| <p>社会福祉学科 3年
 宗片 都喜絵さん
 北海道名寄高等学校出身
 (1番右)</p> | <p>社会保育学科 2年
 片岡 樹里さん
 北海道札幌啓成高等学校出身
 (1番左)</p> | |



ネパールの福祉施設・医療機関



ネパールJICA訪問



家庭訪問の様子



■ネパールの福祉施設・医療機関を訪問

2006年に設立されたNGO施設インディペンデントリビングセンターを訪問しました。ここでは重度障がい者の家庭訪問に同行しました。この訪問を通して社会福祉についてとても考えさせられました。ソーシャルワークでは問題を抱える人だけではなく、その家族や周りにアプローチしていく必要があり、そうした包括的なケアが今のネパールには必要であると感じました。

次に医療機関であるパロパカ産婦人科病院を訪問しました。この病院はネパールで最も歴史のある公立病院です。日本では当たり前の様に管理栄養士が考えた病院食を食べたり、看護師が入院している患者さんの看護をしています。この病院では医療スタッフではなく家族が食事を用意したり身の回りの世話をしていることに驚きました。

■Love Green Nepal 活動について

私たちはこの活動を行うために2日間農村に滞在しました。この活動は様々な背景をもつネパール国民によって共同で運営されているNGOです。メンバーとスタッフは農村地域に住む低所得者の生活に貢献するという意志をもって取り組んでいます。様々な活動をしており、例えば木の苗を育てて植林の活動につなげ森を守ったり、経済的な理由で教育を受けられなかった女性たちが仕事を学び教育を受けられる環境を整えたりしています。現在この活動を通してネパールから日本へ仕事を学びに来ている人がいます。

若い人を中心に日本でノウハウを身につけて仕事の幅が広がれば、もっとネパールの農村地域の人々も豊かに暮らせるのではないかと思います。

左の写真は農村地域で飼育されている牛の写真です。ヒンドゥー教徒は牛を食べません。この牛たちの尿を使って農薬を作ったり、フンを使って燃料を作ったりしているそうです。



インディペンデントリビングセンター



産婦人科訪問



Love Green Nepal 活動

ネパールの環境・教育



浄水場施設を見学



子どもたちとの交流①



子どもたちとの交流②



点字学習をしている様子



Holi (ホーリー)

■ネパールの環境問題について

私たちは、ネパールの人々の生活環境を調査するためメラムチ浄水場へ行きました。この浄水場の役割は、水をろ過しカトマンズなどへ供給する役割を果たすことで、とても大切な施設です。

JICAはこの浄水場の資金の約4分の1を支援しています。

毎日8万5千tの水を供給していますが、カトマンズのニーズにこたえられていないのが現状です。日本で不自由なく水が飲めることのありがたさと同時に、世界が抱える水の問題はとても深刻であるということを感じました。

■ネパールの教育環境

健常者と弱視・盲目の生徒が通うマチェンドラ学校を訪れました。もっと勉強したい・学びたいという生徒が多くいたことが印象的です。授業を見学すると障がいをもっている子どもたちは悲観的になることはなく、1番前に座りとても意欲的でした。障がいをデメリットだと思っていない子どもたちにとっても感銘を受けました。

■ネパールの文化について

私たちはHoli (ホーリー) という祭りに参加してきました。「Holi (ホーリー)」は、春の訪れと収穫を祝うヒンドゥー教の伝統的な祭りで、人々が色と水を使って祝福し合う非常に陽気なイベントです。全身色がついた粉まみれになりながらネパールの文化に触れてきました(笑)とてもいい思い出です！

■今回のスタディツアーを通して

学んだことや感じたことを周りに発信し、資金を寄付したり、車椅子などの物資の支援や日本が培ってきた衛生面での情報を提供したりすることで、各国の方々が安心して暮らせる街づくりをサポートしていきたいと思いました。

今回、スタディツアーに参加したことで、1人1人の働きかけが、環境の改善に繋がることを感じました。今後は海外研修で吸収したことを勉強だけでなく意識の面からも応用し、様々な物事に活かしていきたいです！

海外での研究活動



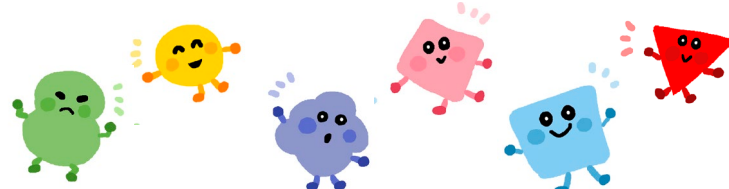
キッチンでサゴ団子を作る女性

保健福祉学部栄養学科
塚原 高広 教授
(健康管理論)



■塚原先生の海外での研究内容について教えてください。

私は一般に開発途上国とよばれる国で研究をしています。その国のごく普通の人びとと同じ言葉を使い、同じものを食べ、一緒に寝泊まりして、彼らの日常生活を知ろうと努めています。その上で食事調査や健康調査を行い、健康改善につながる対策を提案することを目指しています。



■海外での研究をはじめようと思ったきっかけはありますか？

子どものころは探検家に憧れました。探検とは、まだ誰も行ったことがない地域へ行って、そこを調べて何かを探し出したり明らかにしたりすることです。しかし、そこまで精神力や体力がなくあきらめました。海外で研究することは、少し探検に似ています。予期しない事態に次から次へと出会いそれを解決しなくてはならない点、また、研究はまだ誰もやったことがないことに取り組むという点で、探検のようにワクワクできます。

■研究を通して印象に残っていることはありますか？

8月にパプアニューギニアの農村で食事調査をしました。9世帯の家に伺い、食材の準備から調理、食べ終わるまで一部始終を観察したりインタビューしたりしました。この村には20年以上も通っていて、多くの村人は私のことを知っています。主食はサゴヤシでん粉を熱湯で固めた「サゴ団子」で、見た目も味も葛餅に似ています。

基本的に料理は大人の女性が作るのですが、ところどころ男性や子どもが手伝うことが見られ、女性1人で料理を作るわけではないことが印象に残りました。



雨水を貯めるタンクの横でココナツミルクを絞る男性

■最後に本学を志望する受験生へメッセージをお願いします。

大学で学ぶ意味は、批判的考察を身につけることだと考えています。批判的考察とは、単に否定することではなく、ある事象を多方面から評価検討することです。ものごとの解釈には、いろいろな見方があります。自分の経験や価値観から一度離れて、さまざまな考え方をしてみると新しい世界が開けることでしょう。わざわざ海外に行かなくても、名寄で地域の人びと、学生、教職員と関わったり、図書館で文献に当たることで、批判的考察を身につけてほしいと思います。名寄での体験が、将来、海外で生活することにつながるかもしれません。

Campus Life

Q&A

～入学してから半年の1年生へ～

現在の心境やこれからの大学生活で楽しみなことをインタビューしました。
入学した頃と現在の違いなど、学生の充実したキャンパスライフを覗いてみましょう



栄養学科 1年
市原中央高等学校 (千葉県) 出身
土屋 百加 さん



看護学科 1年
北海道名寄高等学校 出身
齊藤 ひなの さん



社会福祉学科 1年
北海道岩見沢西高等学校 出身
川島 伸大 さん



社会保育学科 1年
北海道苫小牧西高等学校 出身
吉岡 凛乃さん

半年間生活してみて

名寄市全体が広々としていて、学生も先生も地域の方々も優しい人ばかりです。自分が住んでいた地域では考えられないような開放感があります。疲れた心も癒され、大学を卒業しても北海道に住みたいと思っています！

生活する分には困りませんが、アルバイトの選択肢が少ないことに苦労しました。現在は自宅で小学生を対象にオンライン家庭教師のアルバイトをしています。



栄養学科 1年
土屋 百加 さん

韓国短期留学で世界が広がった！

入学前から海外へ語学留学することに興味があり、今回夏休みを利用して韓国短期留学へ参加しました。

東義大学の寮に滞在し約2週間の語学研修プログラムに参加しました。日本のアニメや楽曲などは韓国でも人気が高く韓国人の中には英語より日本語の方が話せる人がいて驚きました。

研修中はハングル語の講義のほか調理実習なども行われ、チルチョルパンやキンパを作りました。日本人と中国人のグループで調理し英語で会話をしていました。

今回の留学を通して英語力の足りなさを痛感したので、次に留学した際には働いていける程度の英語力や国特有のなまり等を理解して聞き取れるようになりたいです。

友人とハロウィンパーティー

10月に栄養学科の友人とハロウィンパーティーをしました。福利厚生施設を借りて大きなオープンでグラタンなどを焼きました！

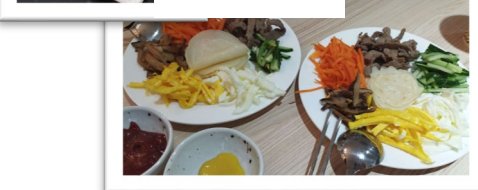
名寄市立大学に通う学生は1人暮らしをしている学生が多いのでみんな助け合って生活をしています。入学前は不安でしたが半年経てば毎日が楽しいです♪

これから挑戦してみたいこと

名寄市ならではの援農ボランティアや農業のバイト、ケアを大事にしている学校ならではのサークル、子ども食堂サークルやSOサークルに参加して地域のみなさんと交流していきたいと思います！



韓国料理



宿泊した学生寮



景福宮

ハロウィンパーティー



あっという間の大学生活！

教養教育科目に加え、看護の知識を学んだり、ベッドメイキングや車椅子での移動介助などの看護技術を学ぶことで、少しずつ看護師へ近づいている気がして嬉しいです。入学して半年が経過する中で友人もでき、お昼ごはんを一緒に食べたり、夏休みには下川町にあるコテージに泊まりに行ったりと、とても充実した学生生活を送っています。私は実家から車で通学しているのですが、名寄市は道路が広いので、とても走りやすく、安心して通学ができています。

オープンキャンパスに参加した感想

私はこれまで2回、オープンキャンパスのサポートメンバーとして参加しました。オープンキャンパスでは、高校生のみなさんと直接話をして、少しでもこの大学に入りたいなと興味を持ってもらえるように活動しています。この活動の中で、自分の大学の魅力を伝えられることができ、やりがいを感じています。また、2・3年生の先輩方とも色々な話ができ、とても楽しいです！

名寄市の魅力

名寄市出身の私から名寄市の魅力をお伝えします！都会のようになんでもすぐに手に入るわけではないのですが、日々の生活を送る上では全く困りません。自然豊かな環境でキャンパスライフを満喫することができます。特に、大学内にある図書館は、とても綺麗でお気に入りの場所です。また、名寄駅の近くにある「よろーな」という施設も私の穴場スポットです。とても落ち着いた空間であるため、課題やレポート作成の際に利用しています。

実習に向けての演習

12月から行われる実習で、実際に看護師の方や医療関係者の方が実践しているケアを間近で見学できることが楽しみです。現在は実習に向けて、学内で演習を行っています。写真はバイタルサインズ測定の様子です。



看護学科 1年
齊藤 ひなの さん

サポートメンバーのみんなと



よろーなの館内



＼私のおすすめ講義／

「専門基礎演習」です。私たちのグループでは車椅子の体験をしました。実際に乗ってみると思ったよりも車椅子を動かすことに体力が必要だなと感じました。

社会福祉を学ぶなかで実際に体験しないとわからないことが、まだまだたくさんあると思うので、ひとつひとつの体験を通して将来の進路選択に役立てていきたいなと思います。

高齢者疑似体験を通して

私は、7月に行われた大学祭とふれあい広場という地域で行われた行事に参加し、高齢者疑似体験のサポートボランティアを行いました。

実際に体験してくれた小学生が「おばあちゃんに対する接し方を考えなきゃ」と言っていたり、別の体験者からは「片麻痺で動きづらいと寝たきりになってしまう気持ち持ちがすごくわかる。今後の生活を見直さなければ」という各年代の意見を沢山聞いて、自分の高齢者に対する考え方が広がりました。写真はふれあい広場で実際に体験セットを装着した写真です。杖がないと歩くのが本当に大変です。

充実したキャンパスライフ

入学時は友人が出来るのか不安でしたが、多くの友人に恵まれ、一緒に名寄市内のスーパーで買い物をして、先日は餃子を200個作りました！(笑)

冬にあったかいスープやシチューを作る予定です！大学生活で自炊も習得したいです！！

社会福祉学科は男子学生も多いのでみんなで和気あいあいと楽しくキャンパスライフを送っています。

陸上競技同好会を設立！

私は高校時代から陸上競技部に所属していたため、大学でも競技を続けたい思いがあり、入学してすぐに同好会設立の申請をしました。現在は自主練習の日が続いていますが、来年は記録会にも出場して意欲的に活動していきたいと思っています！一緒に活動する学生募集中です！



社会福祉学科 1年
川島 伸大 さん



＼餃子パーティー🐾／



種目はハンマー投げ



半年はあっという間！

改めて「半年」と聞くと、もうそんなに経ったのか！と、とても早く感じています。私は中学生の頃から名寄市立大学で社会保育を学ぼうと決めていました。

この半年間、初めて社会保育学科の講義を受け、同じ夢や目標をもつ友人や先輩に囲まれ、とても充実した学生生活を送っています。高校生の頃オープンキャンパスに来た時に見て感じた通りの大学で、これからがますます楽しみです！

自然遊びを通して学ぶこと

先日「こどもと健康」という講義でデイキャンプへ行ってきました。

学生が主体となって自然遊びを考えます。今回は秋らしい写真を撮影するフォトコンテストを行ったり、森林の中を探索したりしました。ただ探索するのではなく、実際の保育現場を意識し、目の前に倒れている木があったら子どもたちはどうやって行動するのか考察しながら探索しました。

将来の進路について

私はこの大学に社会保育とは何かを学びに来ました。将来はこの大学で学んできたことをいかして保育士の道を志しています。しかし、最終目標は社会全体の保育の向上と発展に携われる職に就きたいと考えています。様々な環境の中で育っていく子どもたちが誰一人取り残されることなく平等な保育を受けれる環境を整備することが私の最終目標です。それを見つけにこれからも社会保育を学んでいきます。

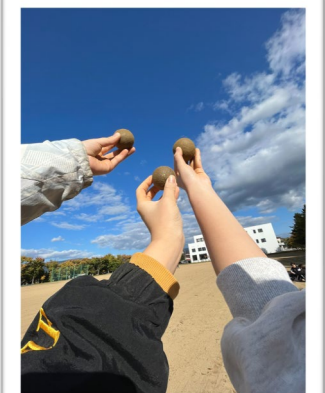
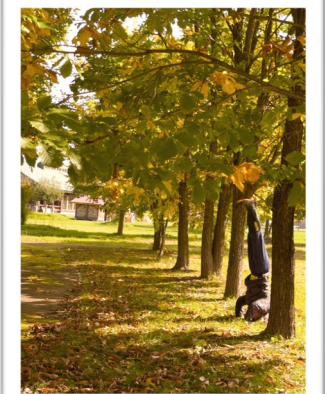
受験生のみなさんへ

朝から夜まで時間を見つけてはノートを見つめるような日々が続いている時期なのではないでしょうか。本当に皆さんお疲れ様です。頑張っ、頑張っ、疲れてきたら、この冊子やSNSで大学のキャンパスを覗いて見てください！きっと皆さんのモチベーションも上がると思います。目標に出会えたことは素晴らしい事です。どうかその初心を忘れず！一緒に頑張りましょう。



社会保育学科 1年
吉岡 凜乃 さん

＼フォトコンテスト受賞作品／



Introduction サークル活動



食事や学習支援、体を動かす遊び等を通して子どもたちだけではなく、保護者や地域住民などの第三の居場所になる。

サークルを通じての学び

子ども食堂と聞いたら、「貧しい家庭の子どもがご飯を食べに行く場所」というイメージを持っている人が多いのではないだろうか。確かに貧困対策のような一面もないとは言えませんが、実際に子ども食堂に参加してくれる子どもの中には、自主的に勉強をするために利用する子、私たち大学生と遊ぶために利用する子、定期的な開催を楽しみに毎回来てくれる子など様々な子がいて、子ども食堂サークルの目標である第三の居場所づくりが行えていることが身をもって実感できています。

サークルの魅力

子どもたちと楽しく関わることができています！学生以外のスタッフもいるので困ったことがあればいつでも相談できます！対象が小中学生なのですが、開催日に来る子どもたちの年齢によって賑やかな雰囲気になったり落ち着いた雰囲気になったり、状況によって変わる雰囲気を感じられることも魅力です。

まだまだメンバー募集中です！一緒に活動しましょう！

こども食堂サークル

部員数：約20名

活動日：年に4～6回、土日
受賞歴：2020年度の名寄市立大学ボランティア活動功労者表彰「グッド・プラクティショナー」